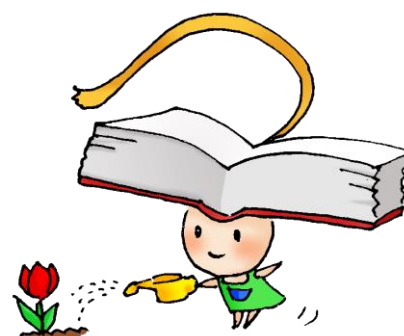


令和３年度小学校教科担任制推進校の取組

令和３年度、小学校教科担任制に取り組んだ７校の推進校の実施報告書から、学習指導や生徒指導の充実に効果的であった校内体制づくりや指導の工夫についてまとめました。小学校において、教科担任制を推進していく際に、ぜひ参考にしてください。

学校名	授業交換の形態
廿日市市立佐方小学校 三次市立十日市小学校	同一学年内（第６学年のみ）
東広島市立東西条小学校 海田町立海田東小学校	同一学年内（第６学年及び第５学年）
熊野町立熊野第三小学校 三原市立中之町小学校	複数学年間（第６学年と第５学年）
府中市立府中学園	中学校教諭の乗り入れ （義務教育学校）



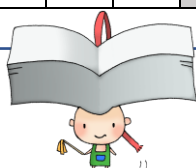
同一学年内（第6学年のみ）の授業交換



<授業計画>

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語	授業時数の 合計	担任する学級 の授業時数
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2		
6年1組 (担任：A)	A	B	A	A	推進	専科	主幹	C	A	A	A	A	C	24.6	18.6
6年2組 (担任：B)	B	B	A	B	推進	専科	主幹	C	B	B	B	B	C	21.2	16.6
6年3組 (担任：C)	C	B	A	C	推進	専科	主幹	C	B	C	C	C	C	23.8	16.6

取組のポイント！



・担任の思いを尊重した教科担当の決定

担任による毎日の宿題の定着や確認から授業改善につなげるため、また、本校で育成を目指す「思考力」及び「表現力」の伸長を捉えるため、国語科と算数科は担任が指導することとした。指導したい教科については柔軟に選定できるようにした。（Aの体育科）

・教科担任制推進だより（KTS通信）を基にした取組の共有

年度当初は、教科担任制導入の目的や期待される効果についての共通理解を図り、来年度からの本格的な導入にあたって、全教職員が自分事として捉えられるように作成した。

取組の具体や児童の声、各種のアンケートを基に成果と課題を丁寧に分析して定期的に発行した。

・全教職員が取組の具体について共通認識をもつための研修の場の設定

夏季休業中には、1学期の教科担任制の授業を振り返り、6年生児童や担当教員のアンケートをもとに研修を行った。6年担任の率直な感想を踏まえ、他の先生方に気付きや疑問点を付箋に書き出し、よいと思ったことや不安に思ったこと、疑問に思ったこと3点で分類・整理した。不安や疑問については、推進教員や6年担任が答え、KTS通信で共有した。

・児童・保護者・教職員アンケートによる実態把握と追跡調査

児童アンケートについては、学期ごとに行い、その変容を丁寧に分析した。児童にとってどのようによかったのかを捉えることができるように、数値の向こう側の児童の存在を常に意識して指導するようにした。否定的な回答をした児童については、その理由を丁寧に聞き取り、思いの把握に努めた。

・学年団での生徒指導体制の確立

教科担任で授業を進め、児童と関わることや他の教科担任との連携を図ることを通して、学年全体で6年生児童を育てるという意識が高まった。生徒指導上の諸問題についても共有することができ、当該担任の気持ちを軽くすることができた。児童自身や保護者もどの先生にでも相談できるという安心感につながった。

・地域・保護者への取組の発信

教科担任による授業参観の様子を学校だよりや学校ホームページで発信し、その効果やよさを広く伝えることができた。市内で実施が予定されていた学校キャリアデザイン講座でも取組について発信することになっていたが、まん延防止重点措置のため中止となった。今後、取組についての情報の発信・普及ができる場があれば積極的に行っていく。

<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

- ・学力の定着が図れ、課題であった予習については、以前よりも取り組めるようになった児童が増えた。
- ・教科担任制で学ぶことで勉強が好きになった児童が増えた。
- ・時間を効率的に活用し、教材研究の充実を図ることができた。
- ・同じ授業を3回するため授業力の向上に効果的であることを実感できた。

○課題

- ・時間割作成や学期末の時数調整が難しかった。



○対策

- ・教科担任全員で時間割作成に取り組む。
- ・時数調整については、計画的に先を見通して確認・調整をしていく。

②生徒指導の充実の取組

○成果

- ・担任以外の先生と話す機会が増えたと実感する児童が増え、安心して学校生活を送ることができた。
- ・アセス（学校環境適応感尺度）における生活満足感、学習的適応の40%以上の割合が93%、教師サポートの40%以上の割合が98%であった。
- ・他の学級の児童のことを共有でき、学年全体で6年生児童を育てるという意識が向上し、生徒指導に生かされた。

○課題

- ・支援の必要な児童についての共通理解が不十分な時もあった。



○対策

- ・教科担任会議（KTS会議）を毎週火曜日に設定し、配慮の必要な児童について交流したことを指導に生かす。

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

- ・中学校に入学する前に教科担任による授業が経験できたことを、児童だけでなく保護者も肯定的に捉えることができた。
- ・教科を専門的に学習しているという意識が芽生え、中学校での授業へ期待を抱く児童の姿が見られた。

○課題

- ・小学校での教科担任制の取組の効果を実感できる小中連携の場（出前授業や乗り入れ授業等）の設定が困難であった。



○対策

- ・学習指導・生徒指導両面で、中学校の先生と関わる場を計画的・意図的に設定できるよう、年度当初に計画を立てる。

同一学年内（第6学年のみ）の授業交換



<授業計画>

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2		
6年い組 (担任：A)	B	A	A	推進	C	A	推進	A	A	A	A	A	A	21.6	15.6
6年ろ組 (担任：B)	B	専科	A	推進	C	B	B	専科	推進	B	B	B	B	20.8	12.8
6年は組 (担任：C)	B	C	A	推進	C	C	推進	C	C	C	C	C	C	21.6	15.6

取組のポイント！



本校は、算数科の授業づくりと第6学年の生徒指導が課題であったため、算数科の指導に専門性をもつ教員を第6学年算数の教科担任に配置し、担任A、B、Cと連携して、学年全体に対して積極的な生徒指導の取組を行った。

◆児童の実態に合わせたカリキュラムの柔軟な運用と、教科担任ならではのダイナミックな単元展開により、児童が学習内容をより深く理解できるようにすると共に、主体的に学習に臨む態度を育てた。

- ①算数科では前学年までの学習の定着率が低く、単元で考えるための基になる知識が不足していることが多かった。そのため、3学期にある「6年間のまとめ」の単元を分解し、各単元の内容に入る前に実施した。1～2時間程度、前学年までの問題を扱って授業を行い、鍵となる見方・考え方を確認した。
- ②算数科「比」の授業では、総合的な学習の時間と関連させて、「1年生のために、割れないシャボン液を作る」という単元のゴールを設定して、毎時間の算数科の授業を行った。（下写真参照）



◆教科担任が空き部屋を「企画室」として運用し、以下のサポートを行った。

①一人一人の児童が輝く場を増やすためのサポート

年間を通して、有志の児童が「デジタルサポート委員会」や「運動会、修学旅行の実行委員会」等、たくさんの組織や企画を立ち上げ、活動するための支援を行った。

②学習に苦手意識のある児童のサポート

休憩時間や給食時間中に企画室を開放し、学習をしたい児童が自由に使える自習コーナーとして使うことができるようにした。

（希望の算数プリント等も準備）

教科担任だからできる動き

【学年の一員としての動き】

空き教室を企画室に改造

企画室

企画室の使い方について、みなさんからBOXにたくさんの意見をもらいました。ありがとうございます。意見を多くもらったものを参考に、使い方を決定しました。

— 企画室の使い方 —

①20分休憩（9:55～10:10）

「フリースペース」

一読書、雑談、テーブルで作業 等 なんでもOK

（ただし、騒ぐ、走る等周りの迷惑になる行為は厳禁です）

②給食後休憩時間（11:50～12:10）

「自主学習コーナー」

…算数の分からないところを開きたい時、勉強がしたい時

③昼休憩（12:30～12:45）

「企画会議」 ④放課後（3:40～3:50）

…係、グループ、実行委員、委員会等で会議をしたい時

<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

- ・三次市学力調査において、教科担任制で授業を行った国語、算数、社会、理科の全ての教科で、昨年度よりも正答率が向上した。課題であった算数科は、平均正答率が昨年度から17.1%向上した。
- ・1月のアンケート結果によると、「教科担任制になってよかった」という児童は全体の99%であり、「詳しく深く学ぶことができる」「多様な学び方ができる」ことに良さを感じている児童が大半であった。

○課題

- ・教員の指導力や学級経営力によって、学力や学習意欲の伸びは大きく変動する。教員の学習集団作りや教科の指導力の向上のための取組が必要である。



○対策

- ・学級集団、学習集団作り研修や教育観について語り合う場を設ける。
- ・校内外で自身の担当教科の内容研究や方法研究を行う場を設ける。

②生徒指導の充実の取組

○成果

- ・学校における年間の校則違反の数が111件から6件（2月16日現在）に減少した。
- ・常に空き時間の教員が1名いることで、トラブルが起きた際も素早く対応することができた。
- ・企画室をつくったことで、児童自ら様々な企画を立ち上げ、活動することができた。それによって、児童の所属感や自己肯定感を高める、積極的な生徒指導としての役割を果たすことができた。

○課題

- ・年度当初の人間関係作りに時間を要する。
- ・生徒指導後の児童の変容の見取りや価値付けが行いにくい。



○対策

- ・学校全体の時程変更や研修内容の精選等の働き方改革によって、教員同士が情報交流する時間を確保する。

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

- ・教科担任制によって、「中学校への不安が無くなった」という児童が多く見られた。
- ・自ら担当教員に質問する児童が増えた。
- ・時間を見て、自ら行動できる児童が増えた。

○課題

- ・今年度は各クラスの宿題は担任に一任していたが、教科担任制としてどういう宿題の出し方が効果的か、考える必要がある。



○対策

- ・宿題の在り方や価値も含めて、児童が各教科の内容を踏まえ、主体的に内容を設定できるような家庭学習の在り方について協議する。

東広島市立東西条小学校

同一学年内（第6学年及び第5学年）の授業交換



<授業計画>

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2		
5年1組 (担任：A)	B	B	推進	A	専科	専科	A	A	推進	A	A	A	A	21.1	14.1
5年2組 (担任：B)	B	B	推進	A	専科	専科	B	B	推進	B	B	B	A	17.1	12.1

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2		
6年1組 (担任：C)	D	D	推進	C	専科	専科	C	D	推進	C	C	C	C	19.4	12.4
6年2組 (担任：D)	D	D	推進	C	専科	専科	D	D	推進	D	D	D	C	18.6	12.0

取組のポイント！



・教材研究の充実

教科担任制を通して、指導教科に焦点化した教材研究を進めていく。また、教材研究を深めることや授業準備の充実を図ることで、教師の授業力を高めていく。複数回、同じ内容を指導することで授業改善も行い、よりよい授業づくりを行っていく。

質の高い授業の実施や教師の授業力の向上により、児童の学力の向上を図る。

指導者間で実際の授業を見合うことで、指導法の工夫改善にもつなげていく。

・ICTの活用

ICT機器を活用することで、授業の効率化を図る。児童への学習事項の興味関心や理解を高めていく。また、授業準備を効率よく行い、授業資料などをデジタルで保存する。授業後は、必要に応じて授業資料の内容を工夫改善したり、次年度へ生かしていけるように保存していき、効率化を図ったり、授業資料の質を高めたりする。

・業務改善の推進

各担任の授業の持ち時間数を軽減することにより、授業準備や家庭学習の点検などを円滑に行うようにする。時間のゆとりを生むことで、各担任が児童と向き合える時間ができるようにする。児童としっかりと向き合える時間を持つことで、児童と各担任が信頼関係を築けるようにする。児童が安心して学校生活を送ることや教師や友達とよりよい人間関係を築くこと等を通して、自己肯定感や自己有用感等を高めていく。

<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

- ・「教科担任制の授業を楽しみにしている」と回答した児童の割合が第5学年は91%、第6学年は83%
- ・「教科担任制で学ぶとわかりやすい」と回答した児童の割合が第5学年は80%、第6学年は89%
- ・単元末テストの結果（12月実施分までの到達度）

	国語科	算数科	社会科	理科
第5学年	86.2	86.6	86.7	83.5
第6学年	88.4	86.9	91.0	84.5

- ・学年間で教科ごとの学力差が生じにくい。
- ・学年の学力の底上げができた。
- ・空き時間を活用して、家庭学習の状況を丁寧に見て把握することができた。

○課題

- ・つまずきのある児童に対する課外での補充者の確保、時間の調整が難しい。
- ・学力の定着状況の分析。

○対策

- ・各担任間で連携を密にして、課外にも指導できるようにしていく。
- ・標準学力調査の結果を分析し、次年度へ生かす。

②生徒指導の充実の取組

○成果

高学年の意識調査（12月実施）	肯定的な回答の割合（%）
自分のことが好きです。	76.9
私には、よいところがあります。	82.5
私は、大切な人間だと思います。	88.1
今の自分は、がんばっています。	86.7
自分の学級には、良いところがあります。	97.9
友達と仲良く話しかうことができます。	99.1
学校は、楽しいです。	92.3

- ・各担任が、しっかり児童と向き合える時間をもつことで、児童の自己肯定感、自己有用感が高まり、共感的な人間関係が構築された。
- ・担任している学級以外の児童と関わることもできた。学級を超えて児童を見る意識が高まった。
- ・複数の教員で児童に関わることで、生徒指導上の問題が減ってきた。高学年の不登校及び不登校傾向の児童が0名であった。

○課題

- ・クラス替えをしたばかりの年度当初に、児童と各担任が不安になってしまう。

○対策

- ・積極的な生徒指導を、学習指導と生活指導の両面で行い、児童が安心して学べる環境を作っていく。

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

- ・「教科担任制で学ぶと頑張ろうという気持ちが高まる」と回答した児童の割合が第5学年は75%、第6学年は67%
- ・「今後も教科担任制で授業をしてほしい」と回答した児童の割合が第5学年は90%、第6学年は68%
- ・「教科担任制で学ぶと担任以外の先生と話しやすくなっている」と回答した児童の割合は第5学年は96%、第6学年は90%

○課題

- ・中学校と定期的に連携を図っていくこと。

○対策

- ・第6学年の卒業前に行う小中連携だけでなく、日頃から情報を共有できるような小中接続の体制を整える。

海田町立海田東小学校

同一学年内（第6学年及び第5学年）の授業交換



<授業計画>

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2		
5年1組 (担任：A)	A	推進	推進	B	専科	専科	A	A	A	A	A	A	A	19.7	15.7
5年2組 (担任：B)	A	推進	推進	B	専科	専科	B	B	B	B	B	B	B	21.7	16.7

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2		
6年1組 (担任：C)	E	専科	D	C	専科	専科	C	C	C	C	C	C	専科	19.6	14.6
6年2組 (担任：D)	推進	推進	推進	D	専科	専科	D	D	D	D	D	D	専科	17.6	14.6
6年3組 (担任：E)	E	専科	推進	C	専科	専科	E	E	E	E	E	E	専科	17.6	13.6

取組のポイント！



・全校で学習規律等の統一「東っ子の学びリニューアル」

学習集団づくりの取組として、生活や学習のきまり等を掲載した冊子「東っ子の学び」を見直し、教員と児童の共通認識のもとで、規律指導を徹底した。

・児童情報交換会

毎月2回児童情報交換会をもち、児童の情報を定期的に共有し、支援方法を検討し共通理解を図った。

・時間割の調整

週案を毎週水曜日に作成・交換し、学級担任と専科で連携した。時数は教務主任が調整し確認した。

・教材の共有化と環境整備

I C T機器等を活用した教材共有や教室備品等の環境整備を行い、学習内容を充実させた。

・カリキュラム・マネジメント

教科担任制となっても教科等横断的な視点を意識しながら授業を行えるよう、年間指導計画の一覧表を活用し、学期毎に単元構成等を検討した。



Table with 10 columns and 10 rows, likely a timetable or schedule. The columns are labeled with numbers 1-10, and the rows are labeled with letters A-J. The cells contain various numbers and symbols, possibly representing different subjects or activities.



<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

- ・教材研究の充実と授業改善
- ・「授業が分かるようになった」と回答した児童の割合 92.8%
- ・「授業への興味や意欲が増した」と回答した児童の割合 72.2%

○課題

- ・各教科の系統性や教科等横断的な学習の視点を意識した学習単元及び授業づくり
- ・児童が主体的に学ぶ授業づくり



○対策

- ・カリキュラム・マネジメント研修の充実
- ・教科毎の指導方法の共有及び複数学年での教材研究
- ・学級担任と連携した家庭学習の充実

②生徒指導の充実の取組

○成果

- ・情報共有による児童の多面的な理解
- ・学年経営の充実
- ・「いろんな先生と接する機会が増えた」と回答した児童の割合 94.2%

○課題

- ・学級実態に応じた柔軟な対応
- ・学級担任の授業が減ることへの不安をもつ保護者の割合 30%



○対策

- ・全教職員による児童の情報共有
- ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりや配慮を要する児童への支援方法等の研修充実
- ・教育活動の積極的な発信

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

- ・教科担任制について「よい」と評価した保護者の割合 91%
(子どもの学習内容の理解が進んでいる, 多くの先生にみてもらっていることで安心感がある)

○課題

- ・小学校教科担任制の取組についての中学校との連携
- ・小・中9年間を見通した学力及び生徒指導上の取組と連携



○対策

- ・小学校の取組について中学校と連携
- ・9年間を見通した取組の共有

複数学年間（第6学年と第5学年）の授業交換



＜授業計画＞

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2		
5年1組 (担任：A)	B	B	推進	C	A	専科	A	推進	専科	A	A	A	専科	17.2	8.4

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2		
6年1組 (担任：B)	B	B	推進	C	A	専科	A	推進	専科	B	B	B	専科	19	9
6年2組 (担任：C)	B	B	推進	C	A	専科	A	推進	専科	C	C	C	専科	19	9

取組のポイント！



1 児童に向けてのオリエンテーション（4月6日）

2 高学年による週一回の推進会議

①時間割の調整

(資料1 高学年スケジュール表)

[illegible]

(資料2 ホワイトボードを利用したの1週間の担当別時間割表)



②児童の様子や授業について情報交換

③特に、支援の必要な児童についてより綿密な情報交換・支援方法の連携

3 アンケートの実施

①実態の把握

- ・児童対象（４・７・１１・１月に実施）
- ・保護者対象（７・１１・１月に実施）
- ・教職員（７・１月に実施）

②取組に対する考察（少数回答も大切にする）

③取組に係る改善策の検討

④改善後の効果検証

教科担任制についてのアンケート（児童用）

年 組 名前

1 学期が終了しました。4 月から始まった教科ごとの担当の先生と学習を進める「教科担任制」はどのように感じましたか。次のアンケートに答えてください。（当てはまる番号に○をつけましょう）

1 授業は進みました。

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
4	3	2	1

2 授業はわかりやすいです。

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
4	3	2	1

3 教科担任制を始めてほしいです。

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
4	3	2	1

4 担任の先生以外の先生と働き方は増えました。

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
4	3	2	1

5 担任の先生の授業が少なくなつて不満です。

とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
4	3	2	1

6 教科担任制について、僕らの影響を受けたいことがあつたと思うので答えます。

(資料3 児童用アンケート用紙)

<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

- ・各教科の統一した指導と評価の実施
- ・指導の深まり
- ・各教科の系統性を意識した授業づくり

○課題

- ・支援の必要な児童への十分な学力保障



○対策

- ・より深い情報共有
- ・宿題のチェックを担当から担当教員へ年度途中で変更

②生徒指導の充実の取組

○成果

- ・児童を多面的に理解
- ・学年・学校全体での統一した指導

○課題

- ・教科担任制における組織的な生徒指導への対応
- ・支援の必要な児童への対応



○対策

- ・発達段階に応じたきめ細かい対応と1日1時間の担任による授業の確保
- ・教員同士の綿密な連携と対応
- ・生徒指導の方向性を整える

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

- ・「中学校への準備になった」と回答した児童の割合が81.6%
- ・教科担任制になじめない児童の実態把握

○課題

- ・教科担任制になじめない児童への支援



○対策

- ・小学校でのきめ細かい支援と中学校との丁寧な連携

三原市立中之町小学校

複数学年間（第6学年と第5学年）の授業交換



<授業計画>

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2		
5年1組 (担任：A)	A	D	B	A	推進	B	C	A	A	A	A	A	推進	24.8	17.3
5年2組 (担任：B)	B	D	B	B	推進	B	C	A	A	B	B	B	推進	24.4	17.3

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語	授業時数の合計	担任する学級の授業時数
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2		
6年1組 (担任：C)	C	D	D	C	推進	B	C	A	C	C	C	C	推進	23.8	17
6年2組 (担任：D)	D	D	D	D	推進	B	C	A	C	D	D	D	推進	23	17

取組のポイント！



1 チーム高学年会議の定例化

⇒曜日と時刻を決め、週に1回、学級担任と関係教員で高学年部会の実施

【話し合う視点】

- (1) 学習指導（ノートの記述の仕方や発言方法）
- (2) 週指導計画の協議・調整
- (3) 児童実態の交流



2 互いに授業参観し、チームで授業改善

⇒空き時間を活用して互いの授業を参観し、
気づきを交流その後、授業改善へ向け
て協議



3 学習評価の共有化

⇒日頃の学習評価をきめ細やかに記録した補助簿を活用し、テストの結果だけでなく、学習経過を記録したものを担任へ渡し、児童の実態を共有
⇒教科によって、高学年会議で協議し、評価規準を明確に

4 保護者への周知

⇒年度初めに学校便り、学年便りで、本事業の目的や期待される効果を周知
⇒参観日で、担任以外が授業を行う様子を保護者に公開

5 児童・保護者アンケートの実施

⇒定期的に児童アンケートを行い、実態に応じて授業・取組を改善
⇒保護者アンケートを行い、保護者の願いを受け止めて、取組を改善

教科担任から

- 【国語】藤沢先生
授業で児童を驚かせています。自分の得意なところを上手に伝える方法を指導しています。児童の発表を上手に受け止めています。授業の進め方を工夫しています。
- 【算数】藤澤先生
長年担任「算数」の授業をしています。児童の理解を深めるために、様々な工夫をしています。授業の進め方を工夫しています。
- 【音楽】藤澤先生
児童の発表を上手に受け止めています。児童の発表を上手に受け止めています。授業の進め方を工夫しています。
- 【図工・外国語】奥野先生
児童の発表を上手に受け止めています。児童の発表を上手に受け止めています。授業の進め方を工夫しています。
- 【家庭・体育】奥野先生
児童の発表を上手に受け止めています。児童の発表を上手に受け止めています。授業の進め方を工夫しています。

各教科での児童の様子を発信したもの

<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

1 児童アンケートの結果

- ・「教科担任制が始まり、昨年度と比べて学習が楽しくなった」と答えた児童の割合
1学期 95.1% → 3学期 100%
- ・「教科担任制が始まり、昨年度と比べて学習がわかる（できる）ようになった」と答えた児童の割合
1学期 94.1% → 3学期 98.0%

2 保護者アンケートの結果

①昨年度と比べてあなたのお子様は学習に意欲的になったと思いますか。

①昨年度と比べてあなたのお子様は学習がわかる（できる）ようになったと思いますか。



3 担当教科の教材研究の深化、質の高い授業づくり

(1) 教員アンケートの結果

- ・教科担任制になる前と比べて、教材研究や授業準備ができていると答えた割合 **100%**
- (2) 授業展開を工夫するため、新たな取組に挑戦（他校の教員や関係機関等との連携）

○課題

- ・担当教科以外の理解度、定着度の把握
- ・補充学習が困難
- ・教科横断的なカリキュラム・マネジメント

○対策

- ・補助簿の活用だけでなく、日々の宿題について、教科担当者のみに任せず、担任も指導、評価
- ・フリー学習室を設置し、児童が自由に読書、作業、学習ができる環境づくり
- ・高学年会議の中で各担当教科の系統性を意識した授業づくりの熟議

②生徒指導の充実の取組

○成果

- 1 児童の様子（変化）を迅速に把握・対応
⇒複数の教員の目で児童の成長を見守り、微細な変化も把握し、積極的な生徒指導の展開
- 2 学習規律を統一・徹底
⇒授業の受け方やノートの記述の仕方、発言方法等の学習規律を統一
- 3 生徒指導体制の確立
⇒友達関係における悩みやトラブルに対して、常にチーム（組織）で対応

○課題

- ・指導を行った後のフォローや価値付けが困難
- ・授業によって児童の態度が変化
- ・欠席児童のフォロー体制の確立

○対策

- ・他の教員と連携を密にし、多くの教員でフォロー・価値付け
- ・高学年会議の中で、指導の視点を熟議
- ・Chromebookの活用やリモート授業の充実
- ・放課後、フリー学習室の活用

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

児童アンケートの結果

中学校に進学するにあたって、不安・心配なことがないと答えた児童の割合 **89%**
(不安・心配なことがあると答えた児童の割合の内訳 学習関係 8%, 人間関係 2%, その他 1%)

○課題

- ・出前授業（中学校授業スタイルの慣れ）の未実施
- ・中学校ブロックによる探究的な学習の取組
- ・小学校と中学校での人間関係の違い（先輩・後輩）

○対策

- ・小中連携を定期的に関催
- ・小中9年間で系統立てた資質・能力の育成

<成果と課題>

①学力の定着の取組

○成果

- ・専科指導を行った国語科，算数科，社会科における「〇〇の勉強は好きだ」の肯定的回答の割合が全国平均を上回った。
- ・専科指導を行った国語科，算数科，理科における「〇〇の授業はよく分かる」の肯定的回答の割合が全国平均を上回った。
- ・市販の「学力調査」の平均正答率が，第5学年は国語科，算数科で，第6学年は算数科で全国平均を上回った。特に，算数科ではどの学年も全校平均を5ポイント以上上回る顕著な結果が出た。

○課題

- ・外国語科における「〇〇の勉強は好きだ」「〇〇の授業の内容はよく分かる」の肯定的回答の割合が全国平均を下回った。



○対策

- ・外国語科を「好きでない」「よく分からない」と回答した理由を把握し，それを基にした授業改善を行う。

②生徒指導の充実の取組

○成果

- ・毎時間の児童の様子を書いた授業点検簿の活用，毎日の放課後の学年会とその報告が定着し，学年や学級の情報の共有をスムーズに行うことができる等，組織的な生徒指導体制が確立できた。

○課題

- ・一部の教科で真面目に取り組まない児童が出てきた。



○対策

- ・学年会等で児童の様子や取組を共有し，学年や学校全体で対応する。具体的には，該当教科の授業に，空きコマの教員が教室に行くなどの対応を行う。

③中学校への円滑な接続の取組

○成果

- ・後期課程教員による授業を行うことで，後期課程での授業の見通しをもたせることができた。児童の声に「後期課程の気分になれた」「後期課程のことが分かった」等の意見があった。

○課題

- ・同じ教科を担当する前期課程と後期課程の教員で話し合う場をあまりもつことができなかった。



○対策

- ・同じ教科を担当する前期課程と後期課程の教員で定期的に話し合う教科部会の場を設定し，児童の学習状況の把握や指導方針等について共有する。